

令和5年度第1回 米子市廃棄物減量等推進審議会議事概要

日 時 令和5年8月4日(金) 10:00から

場 所 米子市役所 本庁舎4階 401会議室

1 第4次米子市一般廃棄物処理基本計画の数値目標の達成状況について

～事務局説明～

《A 委員》

1人1日当たりのごみ排出量について、市関与の集団回収が無くなり、その分のごみ排出量が減ったのは、実際に減ったわけではなく把握していないだけだがそのあたりどのように考えているか。

《事務局》

集団回収は、自治会や子供会などの住民団体が古紙などの資源物を再資源化する事業者を引き渡した実績を市に報告しその量を計上していたが、取組団体数も回収量も減少していたことから令和3年度末を以って終了した。近年は、民間設置の回収ボックスが多くあり、集団回収によらなくても個人が民間に出すことが容易で、またその量を正確に把握することは困難であり、市の計画収集量には計上していない。

《A 委員》

事業系ごみが減り家庭系ごみが減らないのは、事業系ごみが家庭系ごみに計上されているということはないか。

《事務局》

事業系ごみは、市が収集するごみ置場に出すことができないため、許可業者が収集するか事業者が自ら米子市クリーンセンターに搬入している。事業系ごみが家庭系ごみに計上されることはない。

《会長》

民間の古紙や発泡スチロール等の回収量を把握することはできないか。

《事務局》

民間の古紙回収やスーパー等での店頭回収の量については、現状把握していない。民間の回収拠点は周辺市町村の方も利用でき正確な数字を把握することは難しい。

《B 委員》

事業者が処理している量を把握することは必要なことだと思う。

2ページ目、3ページ目のごみの内訳を見るとペットボトルの量が増えている。お店にマイボトルを持って行って飲み物を入れてもらうといった社会へ向けた取組も考えて欲しい。また、小型家電リサイクルが増えているが、不燃ごみに出されていたものが小型家電リサイクルに出される流れになる様に周知したら良いと思う。

《事務局》

ペットボトルの使用量を減らす取組や小型家電リサイクルの周知について、引き続き広報していきたい。

《C 委員》

民間の古紙回収を利用することは、皆さんの資源化の意識が高くなっていることで良いとは思っているので、民間の取引データも市が取得していく必要があると思う。

ペットボトルの使用量削減のため、マイボトルに飲み物を入れてもらう取組を広げるために、各イベントや各施設で市が率先して取り組めば見本となると思うがどうか。

《事務局》

民間の古紙回収量は、県が調査したデータを貰っているがその時期が遅いということで、市の計画には合わせて報告していない。ここでは、市が関与する収集量のみを報告している。

イベントや各施設でマイボトルの取組を率先して行うご提案については、依頼の仕方など調査研究したい。

《D 委員》

民間事業者の古紙回収量については、県で調査しデータをまとめている。民間の回収は周辺市町村からも入ってくるので正確な数値の把握は難しいと言われたが、実際にそのとおりであり、県のデータでは日吉津村の1人当たりのごみが多いが、これは、人の集まる回収拠点があり周辺市町村も集まるためと考えられる。そのため、境港市が計画を立てる際は、周辺市町村のデータも合わせて計画に載せた経緯があるので、参考にされたい。

マイボトルについては、県も啓発しているので、参考にされたい。

集団回収は、子供や保護者への分別回収の意識付けの意味で重要ではないかと思う。学習機会の提供のためにも集団回収は行う方が良いと思う。

《事務局》

計画を立てる際は、他市の計画も参考に研究したい。

集団回収については、市議会でも同様の意見を頂いた。学習機会の提供のために副教材を検討している。

《D 委員》

家庭ごみの特に可燃ごみを減らすことが課題と認識した。混合粗大ごみの回収が始まれば今後その分が増えると思う。リサイクル推進員として、皆さんに分別のお願いしているが、今後は減量化という面にも注力して呼び掛けていきたい。

《事務局》

可燃ごみが多いという点では、可燃ごみの多くを占める生ごみの減量化が重要と考える。生ごみの水切りを引続き広報していきたい。

令和2年度からコロナ禍により家庭で過ごす時間が増えたことも、この期間の家庭ごみの減量が進んでいない理由の一つとも考えられる。目標達成に向けて引続き減量化に向けた広報をしていきたい。

2 混合粗大ごみの処理に係る実証事業について

～事務局説明～

《E 委員》

処理費用が当初の想定と実績で大きく異なったのは、容積の問題か。

《事務局》

処理費用はコンテナ単位の容積で掛かるが、実際に受け取る際は一つ一つ体積を測ることはできないため重量を測定することとし、重量を容積に換算して想定費用を算出した。その換算が想定と実績で異なったため差が生まれた。

《E 委員》

当初は、令和6年度からの全市展開を目指していたが、想定金額と実績が大きく異なったことからその差を埋めるのが難しい検討になるかと思うが、全市展開の時期について伺いたい。

《事務局》

全市展開の時期については、明言ができない。費用や方法について再度検討をし直して、また、説明をしたい。

《F 委員》

385円/10kgは破格の値段だと思っていたが、業者の見積もりはどうだったのか。また、処理はどの様に行ったのか。

《事務局》

先ほどの説明と同じになるが、業者の見積もりは立米当たりの処理費用になる。一つ一つの体積は測れないため重量に換算した処理費用を算出した。その換算には環境省の換算式を参考にしたが、実際には、家庭から出るごみにはその換算式が合わなかった。

《F 委員》

ゴルフバックやソファなどの処理はどの様にやっているのか。

《事務局》

資料2の6ページ目の(3)に処理量を記載しているが、こちらにあるように再生利用することを前提に、金属などの資源物の回収、木くずはチップ化などの再生利用ができる事業者に処理を依頼した。

《F 委員》

どんな作業をしたのか詳しく確認し処理費用を検討された方が良い。他市は品目毎に処理費用を設定してるケースもあるのでそのあたりよく調べた方が良い。

《事務局》

他市の品目毎に処理費用を設定してるケースも調べ、金額設定について再度検討したい。

《会長》

処理実績については、資料2の6ページ目に記載されているが、詳しく説明をお願いします。

《事務局》

資料2の6ページ目の上段には、各月ごとの処理先の搬入量、再生利用量、処理経費等を記載している。処理経費は歳出の合計が2,519,000円となり、歳入の合計は585,585円となった。

処理量は、搬入量が体積で184m³、重量で13,260kg、そのうち再生利用量が8,120kgで再生利用率は61.2%であった。残りの約39%は残渣として焼却処理した。

処理単価については、1kg当たりの処理経費190円になる。この処理費用は運搬と処理費用が含まれている。運搬を除いた処理経費は1kg当たり153円になる。

1m³当たりの処理経費にすると運搬と処理費用を含めて13,690円になる。

《会長》

61%再生利用ですので、かなり手を加えて分別処理をしていると印象を持ちましたが。

《事務局》

再生利用を前提に処理することを事業のポイントとしている。

《F 委員》

実際に分解するのにどれだけの人と時間がかかるのか実験して、細かく検討した方がよいのでは。

《事務局》

処理工程、処理方法を確認したい。

《E 委員》

軽いものが多かったから、処理費用が高くなったと認識している。軽いものも混合粗大ごみとして集める必要があるのかも検討してはどうか。

《事務局》

何を対象にし、また料金設定を同じにするのか、品目ごとに料金を変えるのかといったことも今後検討したい。

《会長》

実証実験を他の地区でもやってみては。

《D 委員》

鳥取市は品目毎に料金設定をしている。参考にしてみても。

《E 委員》

鳥取市は収支があっているのか。

《F 委員》

西部地震の際の災害ごみの処理も参考にしてみても。

《A 委員》

自治体が行う一般廃棄物の処理は収支が合う合わないにかかわらず、自治体の廃棄物処理の責任で行っているものと認識している。

《D 委員》

いざ災害が発生した際に不要なものが大量に出てくると処理に困るため、平時から処分できる環境があるとよい。

《会長》

多くの意見ができましたので、参考にして検討して欲しい。

3 その他

《会長》

議題は以上ですが、その他何かあるか。

《事務局》

令和14年度稼働を目指して西部広域行政が次期ごみ処理施設の整備を進めている。現在は建設候補地に選定された地域の自治会や農業団体等に選定の経過などの説明に回ったところ。今後、施設概要などの検討に入る。将来のごみ処理に関係することなので今後も経過を報告をする。

以上